

氷海環境学特論（2単位）

担当者氏名 塩本 明弘、西野 康人

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

植物プランクトンの生産力（基礎生産力）は水圏の生物生産力を支えており、環境の影響を強く受ける。冬季のオホーツク海は海水に覆われるため、水中の光環境は氷のない季節と著しく異なる。また、海水の形成は、海洋中の鉛直混合を左右することから、下層からの栄養供給にも作用する。これらのことから、海水は基礎生産力に大きな影響を与える。このような氷海特有の環境について、とくにプランクトンとの関係を中心に講義をする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

海水	オホーツク海	氷海域	プランクトン
物理的環境	化学的環境	生態系	地球環境

◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス (担当：塩本明弘)	講義の目標と進行など	◎シラバスを熟読し、どのような講義が行われるかを事前に理解しておくことが必要である。そのためにも、学部の授業(氷海の環境学)などで配布された資料や授業中にとったノートを読み返しておくこと。また、講義中には積極的に質問をすることに心がけること。加えて、講義中に配布された資料などを基に復習し、疑問などが生じた場合には、次回の講義において質問をすること。
2～4	海水の生成と氷海域の環境 (担当：塩本明弘)	氷の特徴と海水の生成、水中・氷下の物理的(光)・化学的(栄養塩)環境	
5～7	海水と基礎生産 (担当：西野康人)	アイスアルジーと海水下の植物プランクトン	
8～10	地球規模の海水の特徴と変動 (担当：塩本明弘)	北極海と南極海の海水の年変動とその要因	
10～12	氷海域における物質の動態 (担当：塩本明弘)	氷中の様々な物質の分布と動態、氷中から海水中への物質の供給	
13～15	氷海の生態系 (担当：西野康人)	氷海の低次生物と高次生物	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、資料をわたす

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

授業中に紹介する

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

出席とレポートで評価する

◆オフィスアワー

随時

◆その他受講上の注意事項

◎予習、復習を怠らないこと。講義においては、積極的に質問をすること